

## 佳作

## 挑戦

茨城県霞ヶ浦高等学校附属中学校二年 柿原 真愛菜

小学三年生の弟は、毎年、夏休みにあることに挑戦します。それは、水泳です。運動が得意な弟ですが、水が大の苦手です。顔をつけるのもできません。普段は楽天的な弟ですが、本当は「泳げるようになりたい」と心の中で強く願っていることを、私は知っています。そこで弟は、昨年の夏休み、町のプール教室に通うことを決めました。昨年は緊張していた弟ですが、今年は二回目。意気揚々と通い始めました。

一日目は、クラス分けの試験の日。顔を水面につけるから頭まで潜るまで、弟は順調に合格。次の水中に潜ってジャンケン。これはできないかもと、内心私は思いましたが、私の予想を弟はあっさり覆し見事合格。弟はジャンケンの相手と少し興奮気味に笑い合っています。けれども、順調だったのはここ

まで。次のビート板なしのバタ足で、急に怖気付いたのか弟は、プールサイドに座ったまま試験を受けませんでした。私の心に、がっかりした気持ち少なからずわいてしまいました。

次の練習日、夏だといわんばかりの日差しの中、練習が始まりました。弟は四組のクラス。去年と同じスタートライン。けのびを二時間ひたすら繰り返す、コーチの助言通り真面目に取り組みました。そのかいもあり、その日に一つ上の組に上がりました。昇級のなかった去年に比べると、すごい進歩です。弟は、家やオフロで息つきやバタ足の練習に励み、最終的に二級まで上がり、何とかクロールの型を身につけることができました。

合計八回の練習を終え、心地よい風が吹く夏空の下、弟たちは記録会を無事迎えました。組毎に並んで説明を真剣に聞く小学生の姿からは、緊張感が漂ってきます。そして、記録会は始まりました。どの子もコーチの笛の音に耳を傾け、自己ベストに挑戦していきます。やがて、弟の出番がやってきました。ビート板なしの挑戦です。弟も笛の音に集中。合図とともに思いっ切り壁をかけた弟は、その勢いのまま力強いバタ足を続け、覚えたばかりの息つきと両

腕を大きく回して前進しました。一生懸命弟は泳いでいます。私は思わず身を乗り出し、弟の水しぶきの音に負けないくらい大きな声援を送りました。泳ぎ終えた弟に会場から大きな拍手が贈られました。拍手しながら私もうれしさのあまり胸が熱くなりました。

夏休みの最後の日曜日、表彰式が行われました。名前を呼ばれ大きな返事をし、胸を張って堂々と前へ進んでいく弟は皆勤賞と努力賞の授与を受けました。二つの賞を弟は自分の力で獲得しました。これは、本人の努力の賜物であり、努力の証しでもあります。

「俺、来年も挑戦する。」  
小さな勇者は真っ黒に日焼けした顔で言いました。彼の挑戦する姿は私に大きな感動を与えてくれました。私は、来年もこの愛すべき小さな勇者を精一杯応援したいと思います。